

北海道で見られる腐生性イグチについて

札幌市 村上 勝利

一般に、腐生性イグチとして、ザイモクイグチ・オオキイロイグチ・(仮) マツノキイロイグチ等が知られています。北海道で

も不明の腐生性イグチを確認しているので報告したいと思います。

〔事例 1〕

不明イグチはカラマツ生立木の基部から発生しているもので、2008～2010 年の 7 月中旬～8 月中旬頃に当別町道民の森と苫小牧市口無沼公園の 2 か所で見られました。



〔事例 2〕

不明イグチはアカエゾマツの生立木の根元腐朽部から発生しているもので、2011～2012 年の 8 月上旬～9 月下旬頃に倶知安町半月湖で見られました。



この不明イグチの特徴は「中形（傘径 3.2－6.5 cm）の子実体で、傘はフェルト状で橙黄色～山吹色（OAC810, 803）、縁は管孔面よりせり出す。肉は厚さ 20 mm 以下、白色、柄肉で黄色、切断すると弱く青変する。柄は 3.5－5.5×0.5－1.5 cm、ほぼ同大、中心性～やや偏心性で頂部付近に網目がある。管孔は深さ 6 mm 以下、垂生、帯緑黄色、切断すると青変する。孔口は中型（1－2 per mm）、円形～多角形、黄色、傷つくと青変する。孢子紋は帯緑黄色。担子孢子は $7-9 \times 3-3.5 \mu\text{m}$ 、 $Q=2-2.8$ （平均 $8.1 \times 3.4 \mu\text{m}$ 、 $Q=2.4$ 、 $N=20$ ）。傘表皮は錯綜状毛状被、末端細胞は幅径 $4-6 \times 26-73 \mu\text{m}$ 、円筒形で頂部は鈍頭状。」となっています。

【コメント】

ザイモクイグチ *Pulveroboletus pseudolignicola*（キイロイグチ属）は「大形（傘の径 4－17 cm、柄の径 2－6 cm）の子実体で、柄に網目を欠き、孔口は小型（2－3 per mm）。孢子は $5-7 \times 3.5-4.5 \mu\text{m}$ 、 $Q=1.4$ 。傘表皮は錯綜状被、末端細胞は幅径 $3-6 \mu\text{m}$ 。マツ鋸屑の堆積したものから群生、叢生。」の事から異なります。**オオキイロイグチ** *Buchwaldoboletus sphaerocephalus*（ザイモクイグチ属）は「孔口は放射状に配列し、大きさは 0.8－1.5 mm。孢子は $5-7 \times 3-4 \mu\text{m}$ 、 $Q=1.7-1.9$ 。傘表皮は錯綜状被、末端細胞は幅径 $5-8 \times 33-38 \mu\text{m}$ 。海岸のクロマツの切株及び根上に単生、散生。」の事から異なります。但し、**オオキイロイグチ**の記載は今治市小川尚志氏採集：2010. 11. 1、海岸のクロマツの腐朽切り株および根元から発生（老菌）。[標本 M10-1101-59]による。



担子孢子



傘表皮

従って、この不明イグチは本州（長野県、群馬県）からも報告がありますので、近い将来において判明するものと思われます。

（参考資料）

- 1) Trans. Mycol. Soc. Japan 28 : 319－324. *Pulveroboletus pseudolignicola* Neda sp. nov. 1987.
- 2) 竹橋誠司・星野保・糟谷大河, 2012. 石狩砂丘と砂浜のきのこ p. 158. NPO 法人北方菌類フォーラム. 札幌